

芦生・天狗岳～三国岳縦走

井上眞由美（KONK）

2017年4月29日(土)～30日(日)、連盟教育遭対部・読図チーム有志で新緑の美しい芦生の天狗岳～三国岳を読図縦走してきました。

4月29日(土)午後、車2台で大阪駅モンベル前に集合、一路京都北山芦生へ。1台を滋賀県側の桑原にデポし、もう1台で京都府南丹市美山町のキャンプ場へ移動。キャンプ場はGWで家族連れで大賑わい。私達もテントの中で楽しみの夕食。各自持ち寄り一品のパンチェッタ、パルミジャーノのトマトソース、椎茸&ソーセージのソテー、野菜いっぱいのスープ、煮卵、サラダ、フルーツがとても美味しく、満腹で幸せの中、カジカガエルの心地いい鳴き声をききながら眠りにつきました。

30日(日)は午前4時起床、各自朝食をとり、ティータイム後、テキパキテントを撤収。5時15分にはテントサイト出発して登山口の下町(京都市広河原)を目指し、6時20分下町登山口をスタート、早稲谷川の林道を進みました。ところどころ道が荒れていて木々が道をふさぎ、ヘルメットをかぶっていてよかったなと思いました。雪は少し残っていましたが持参したアイゼンは不要でした。

地形図を先読みしていた時は分岐の地点でコンパスの確認と思っていたのに、林道となめていて稜線を読図ポイントに早く行きたいという気持ちもあり、木にかかっていた小さな不明瞭な標識の「天狗岳→」の方に進みました。ところがだんだんまわりの地形と地形図が合わなくなり、現在地がわからなくなって分岐まで戻りました。標識をよく見ると「→×」が消えかかっていました。大事な分岐は、標識やテープをあてにせず、必ずコンパス確認が必要だと再確認しました。

小野村割岳には寄らず、踏跡のない谷筋を読図してルート短縮し稜線に出ました。登山地図には「迷う」の印があり楽しみにしていたのですが、かすかな踏跡がありました。支尾根に引き込まれそうになりましたがコンパスですぐ修正できました。特に支尾根がまっすぐ前方にのびていて、行きたいルートの角度が変わる時は先読みで意識しておく必要があります。地形図には書かれていない10m未満のピークも実際に見るとりっぱなピークがあり、現在地を誤ることがあります。何か所かのポイントで道を探したり、違う道に進みかけましたが、すぐに気づき立ち止まって確認、ルート修正ができました。

芦生杉の巨樹、ブナの新緑、タムシバ、ミヤマカタバミ、イワウチワ、イワカガミ、すみれ、アセビ、ヤマツツジなど春いっぱいのロングコースを個性豊かなメンバーで楽しく読図山行できました。

《参加者》井上好司(テンション)、野村靖治(豊中)、大西清見(泉州)

井上眞由美(KONK)